

(2) こども・青少年を取り巻く状況

①学力・学習習慣

大阪市のこどもは、平成26年度全国学力・学習状況調査（以下、全国学力調査）において国語、算数・数学とも全国平均を下回っており、基礎的な「知識」に関する問題（A区分問題）と、思考力・判断力・表現力等が問われる読解や記述式の問題など「活用」に関する問題（B区分問題）の両方で全国平均との差がみられますが、その差は縮小する傾向にあります（図11、12）。

図11 平均正答率の全国との差の変化(小学校)

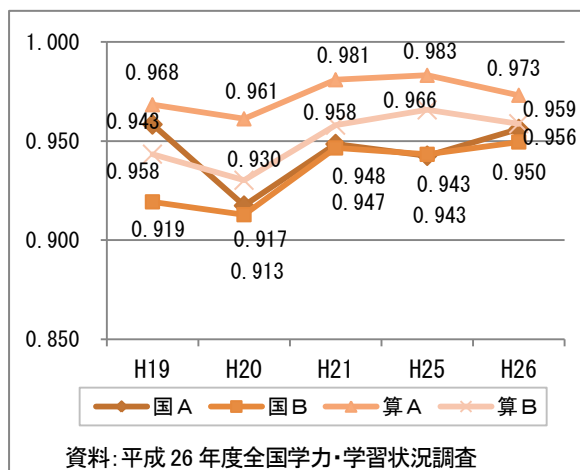
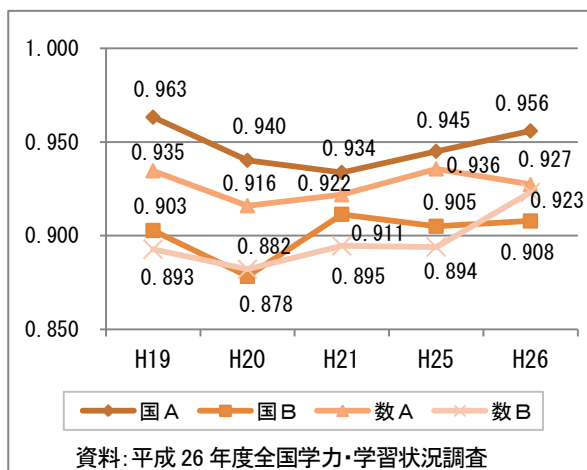


図12 平均正答率の全国との差の変化(中学校)



※悉皆調査の平成19・20・21・25・26年度を取り上げています。

※グラフは、全国の平均正答率を1としたときの大阪市の割合を示したものです。

「家で学校の授業の予習をしている」、「家で学校の授業の復習をしている」という学習習慣に関する項目では、小学生、中学生とも全国平均より低くなっています（図13、14）。

図13 家で学校の授業の予習をしていますか
(小中学生)

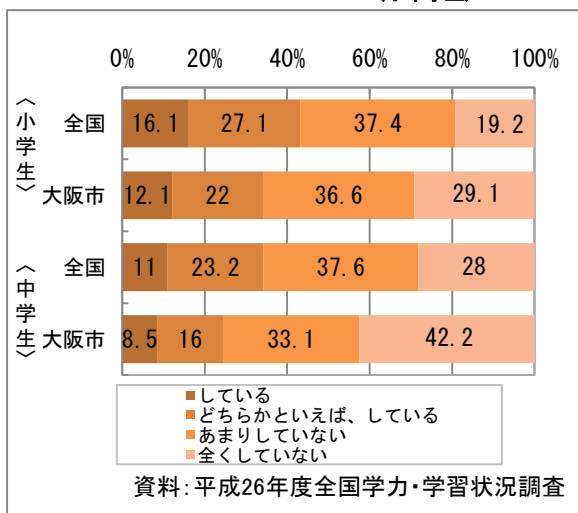
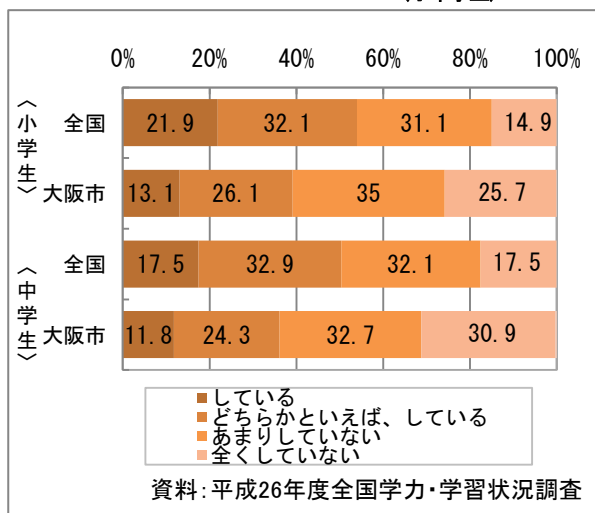


図14 家で学校の授業の復習をしていますか
(小中学生)



②言語力・読書習慣

平成23年度に就学前児童の保護者を対象に実施した大阪市就学前児童生活実態アンケート(以下、就学前児童生活実態アンケート)によると、テレビの視聴時間が長いこどもは、絵本にふれる回数が少ない傾向がみられます(図15)。

また、全国学力調査では、大阪市のこどもは、「普段のテレビやDVDの視聴時間」において1日4時間以上の割合が全国平均より高くなっています(図16)。

また、読書は言葉の獲得や表現力を育成するうえで重要な活動ですが、大阪市のこどもは全国平均と比較して、読書が好きと答えた割合が低く(図17)、家や図書館で読書する時間も短くなっています(図18)。

図15 テレビの視聴時間と絵本を読む頻度(就学前)

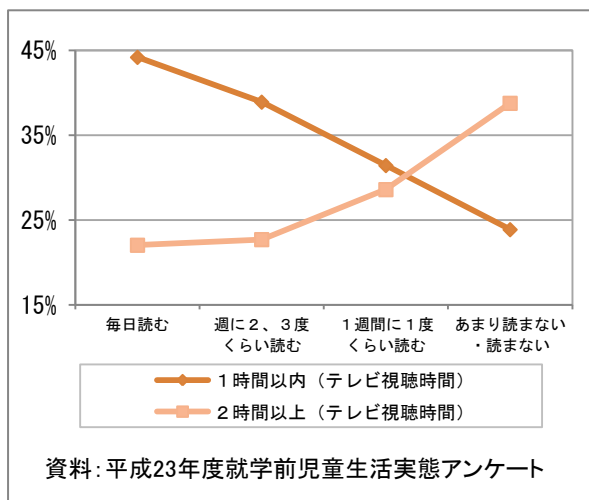


図16 普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか (小中学生)

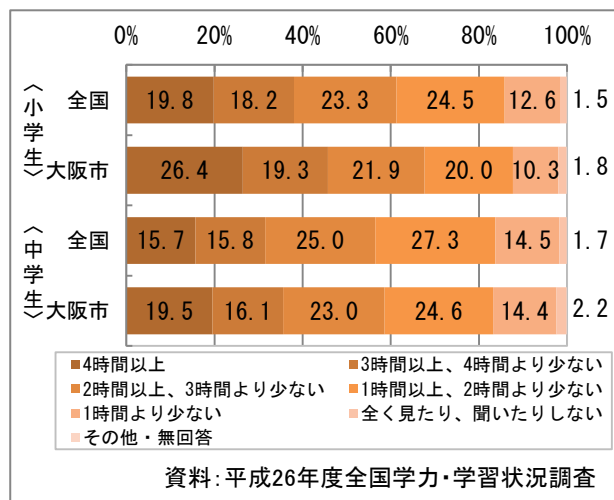


図17 読書は好きですか(小中学生)

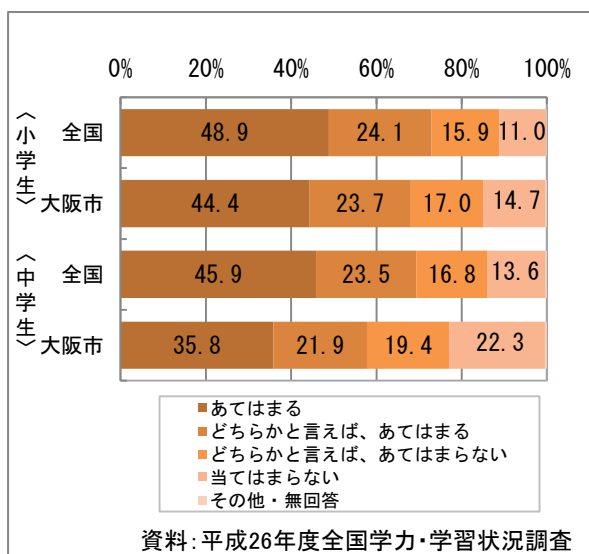
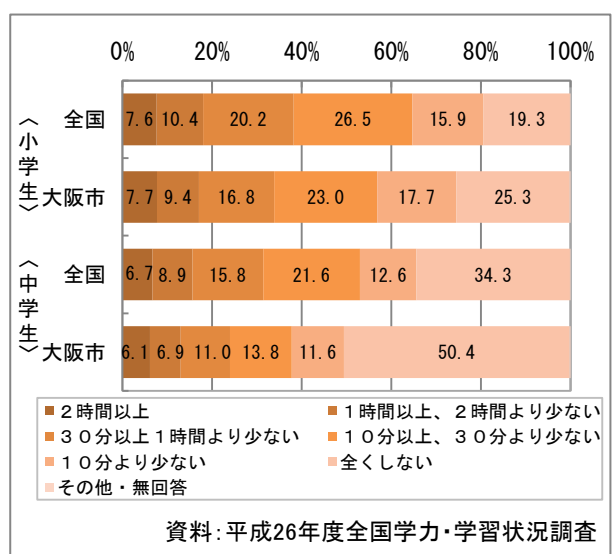


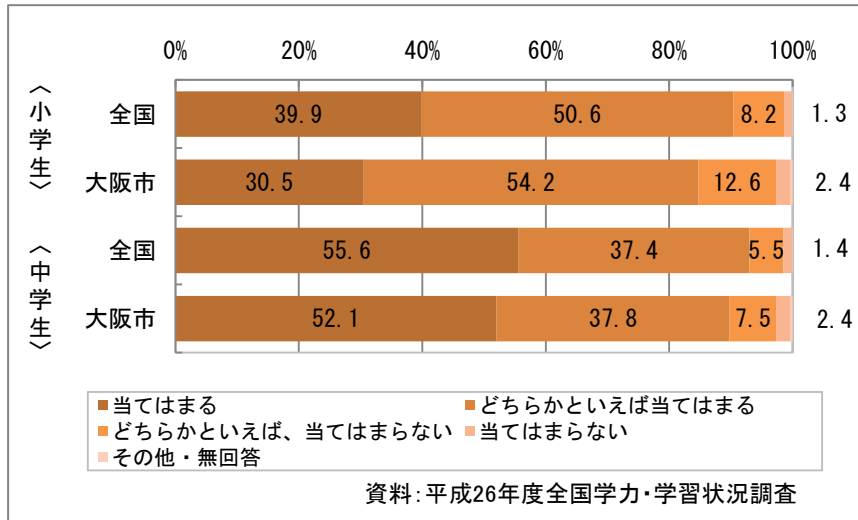
図18 家や図書館で普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間読書を読みますか(小中学生)



③規範意識・社会性

全国学力調査では、大阪市のこどもの「学校のきまり・規則を守っている」割合は全国平均より低い傾向が見られます（図 19）。

図 19 学校のきまりを守っていますか(小学生)
学校の規則を守っていますか(中学生)



④自己肯定感

全国学力調査の結果では、大阪市のこどもは、「自分によいところがあると思う」と答えた割合が全国平均より低い傾向にあります（図 20）。また、「将来の夢や目標を持っている」と答えたこどもの割合も全国平均より低い傾向にあります（図 21）。

図 20 自分にはよいところがあると思いますか
(小中学生)

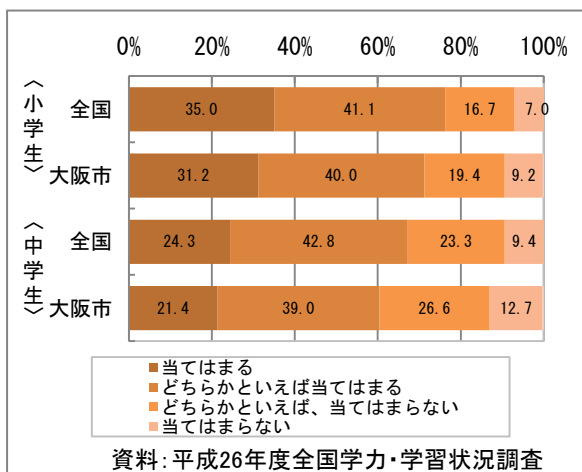
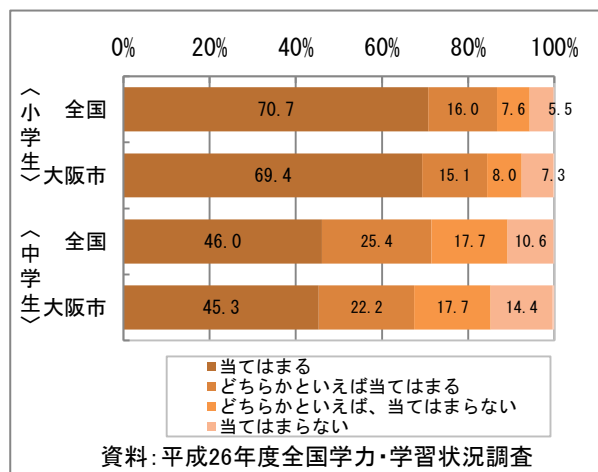


図 21 将来の夢や目標を持っていますか
(小中学生)



大阪市内に在住の15～39歳の方を対象に、平成25年度に実施した大阪市次世代育成支援に関する若者意識調査（以下、若者意識調査）では、「自分がかげがえのない存在だと思うか」について「（あまり）そう思わない」と回答した人が3割弱あり、特に15歳から24歳にかけてはその割合が高い傾向にあります（図22）。また、「将来の夢を持っていますか」については、約70%の人が将来について何らかの夢を持っていると回答しています（図23）。

図22 自分がかげがえのない存在だと思いますか（若者）

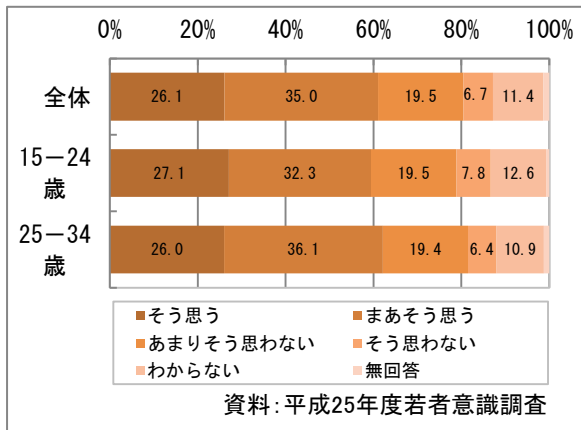
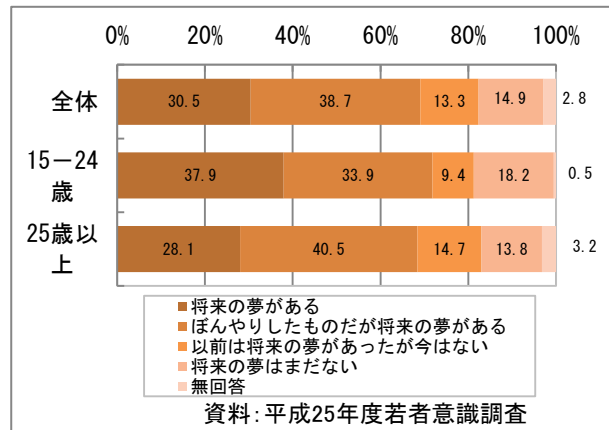


図23 将来の夢を持っていますか(若者)



⑤情報活用能力・コミュニケーション能力

大阪市の調査では、大阪市内のこどもの携帯電話所有率は高く、小学生で6割近くが所有し、年齢が上がるほど携帯電話よりスマートフォンの所有率が高くなっています。また、高校生になると9割以上が携帯電話を所有し、うちスマートフォンを所有する割合も8割近くになっています（図24）。

全国学力調査によると、1日あたり携帯電話やスマートフォンで電話やメール、インターネットをする時間が2時間以上と回答した割合が4割近くにのびります（図25）。

また、若者意識調査では、新しい知識や情報を入手する手段として、「携帯電話・スマートフォン」とともに「テレビ・ラジオ」と回答した人が7割以上を占めています。さらに、15～24歳では「携帯電話・スマートフォン」をあげた人が8割以上を占めています（図26）。

情報活用能力については、「自分が必要とする情報を集めることができる」と回答した人が6割以上いる一方で、「いろいろな情報をうまくまとめることができる」、「いろいろな情報をうまく表現したり、他の人に伝えることができる」と回答した人は4割を下回っています。

コミュニケーションについては、「年齢が離れた人とでもうまくコミュニケーションをとることができる」を回答した人が7割以上います（図27）。

図 24 インターネットやメールができる自分だけの携帯電話(スマートフォンを含む)を持っていますか

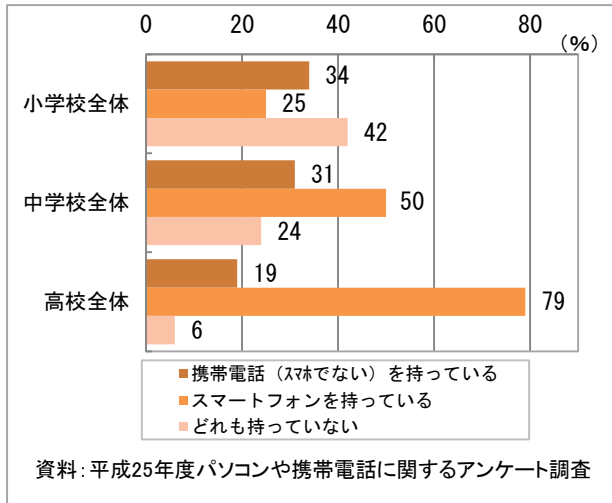


図 25 携帯電話で通話やメールをしていますか(中学生)

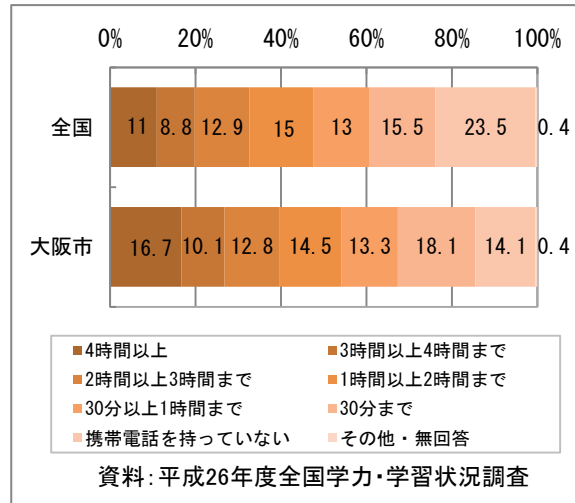


図 26 新しい知識や情報を入手する手段(若者)

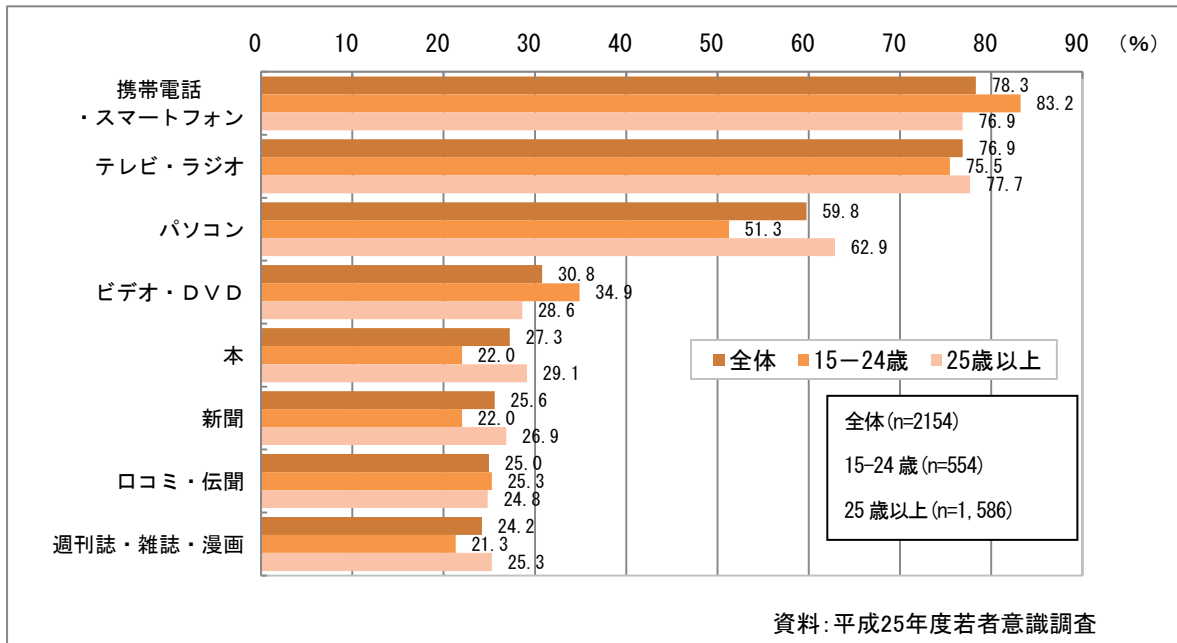
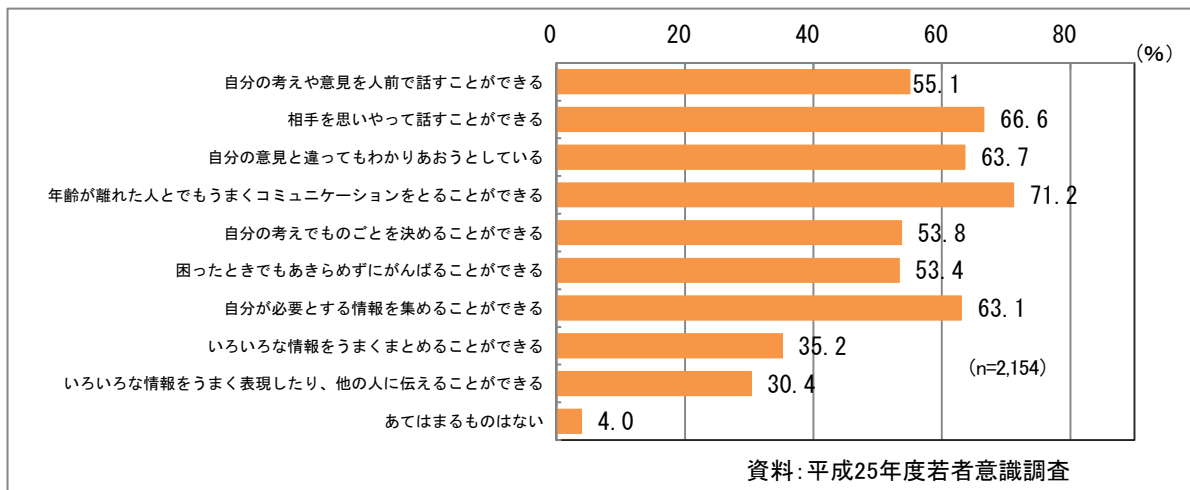


図 27 情報活用能力やコミュニケーションについての意識(若者)



⑥体験活動

就学前児童（0～5歳）の保護者と就学児童（小学校1～3年生）の保護者を対象に、平成25年度に実施した大阪市子ども・子育て支援に関するニーズ等調査（以下、ニーズ等調査）の結果では、就学児童の保護者の約3割が「地域の環境は子どもにとって体験活動に参加しにくい」と感じており（図28）、体験活動に参加していない理由としては、「活動に関する情報がなく、参加しにくい」、「知り合いなどがおらず、参加しにくい」などをあげています（図29）。

図28 地域の環境は子どもにとって体験活動に参加しやすいか(就学児童)

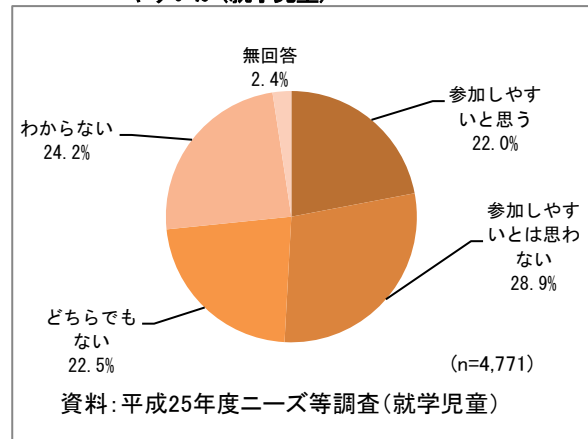
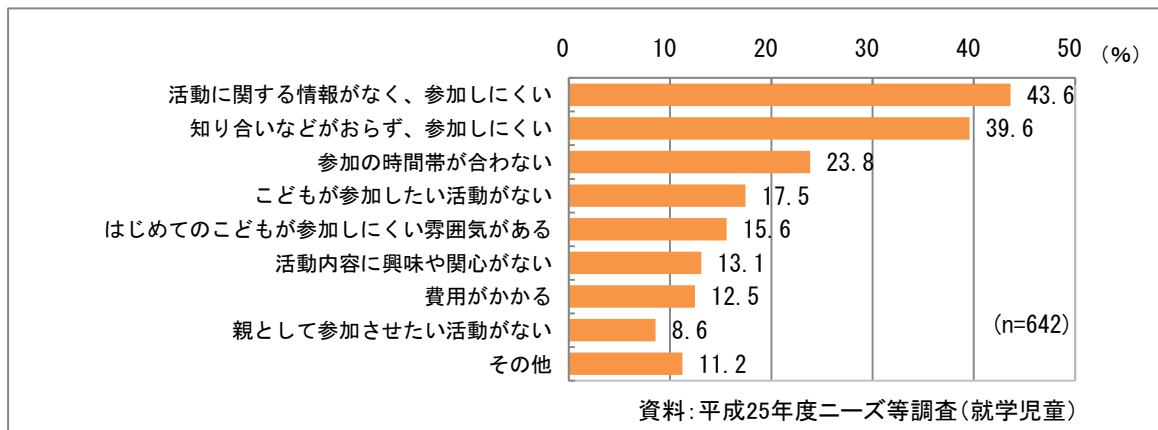
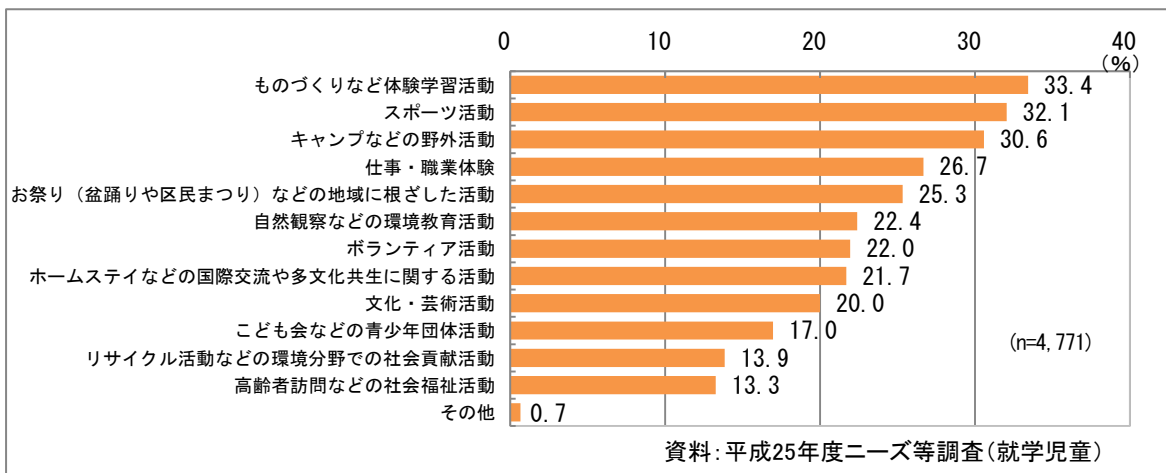


図29 体験活動に参加していない理由(就学児童)



今後子どもを参加させたい地域での活動として、3割を超える保護者が「ものづくりなどの体験学習活動」、「スポーツ活動」、「キャンプなどの野外活動」をあげており、その他にも多様な体験機会への参加希望がみられます（図30）。

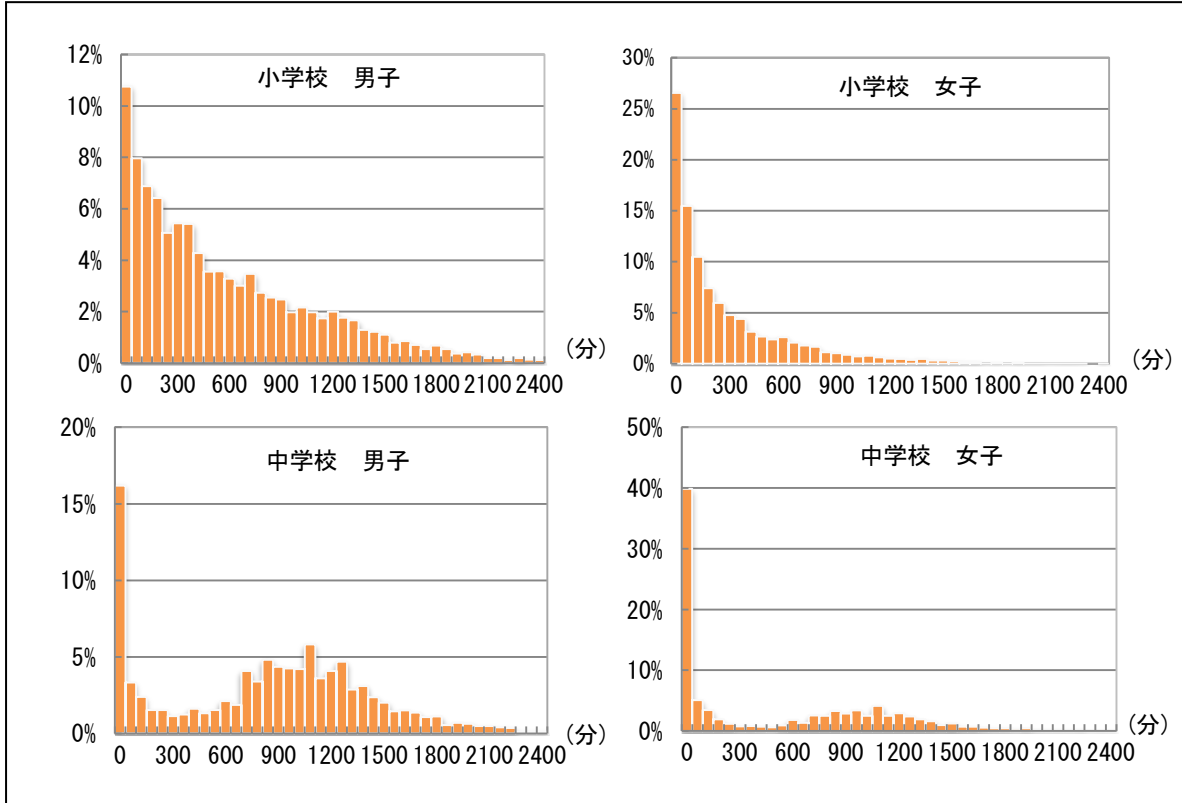
図30 今後参加させたい体験活動(就学児童)



⑦健康・体力

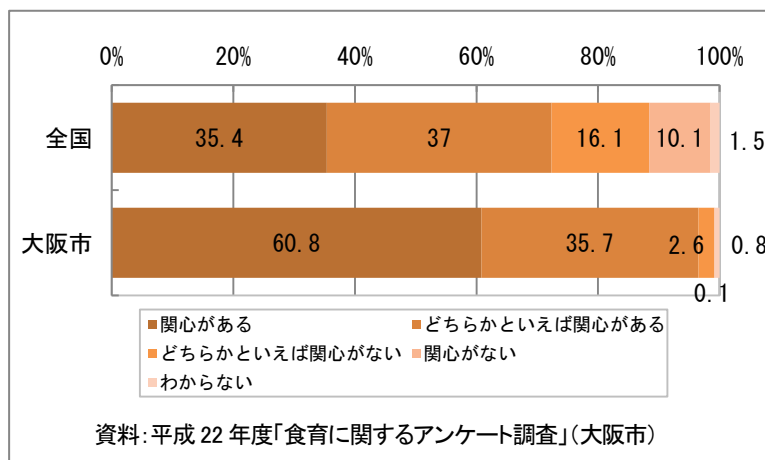
全国体力・運動能力、運動習慣等調査では、運動やスポーツをする児童生徒としない児童生徒の二極化が明らかになっています（図31）。

図31 1週間の総運動時間の分布(大阪市)



平成22年度に行われた、本市の保護者や市民を対象とした「食育に関するアンケート調査」では、食育に対する「関心度」は全国の結果を上回っています（図32）。

図32 食育の関心度



⑧基本的生活習慣

全国学力調査の結果によると、大阪市のこどもは朝食を毎日食べる割合が全国平均より少なく、朝食を毎日は食べていないこどもは、小中学生で2～3割となっています（図 33）。また、就学前児童生活実態アンケートの結果では、就学前児童でも約 10%が朝食を毎日は食べていません（図 34）。

就寝時間は小学生・中学生ともに全国平均よりかなり遅い時間となっています（図 35）。就学前児童でも約 25%が午後 10 時以降に就寝しています（図 36）。

図 33 朝食を毎日食べていますか(小中学生)

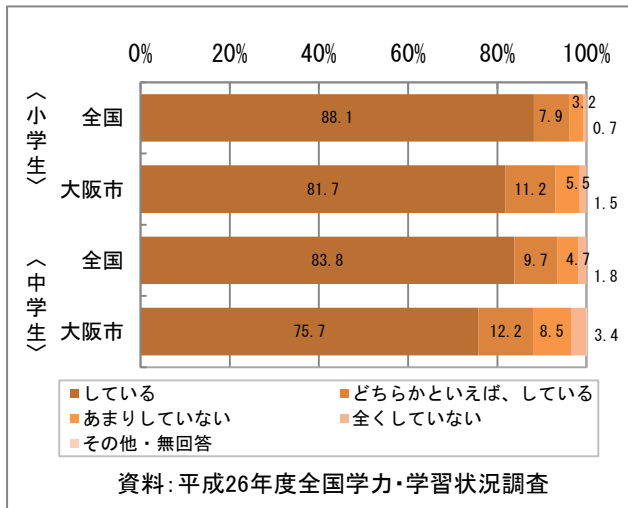


図 34 朝食習慣(就学前児童)

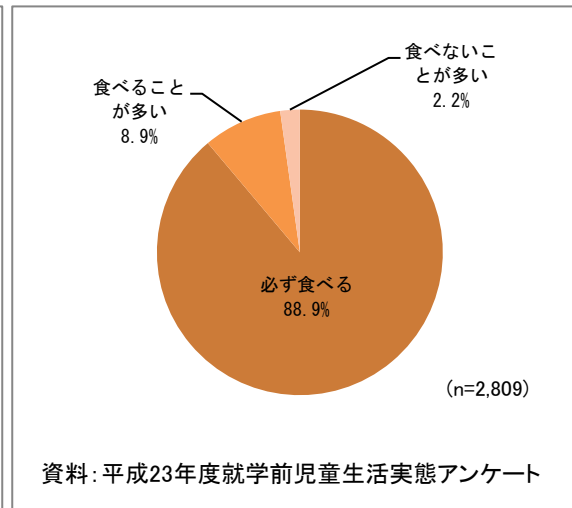


図 35 普段(月～金曜日)、何時ごろに寝ますか(小中学生)

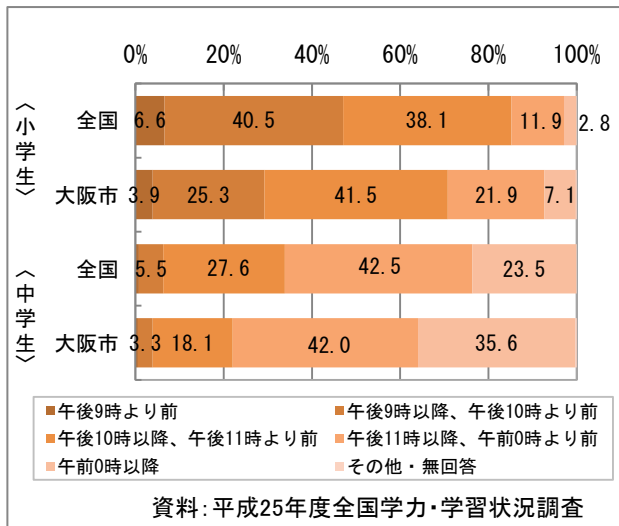
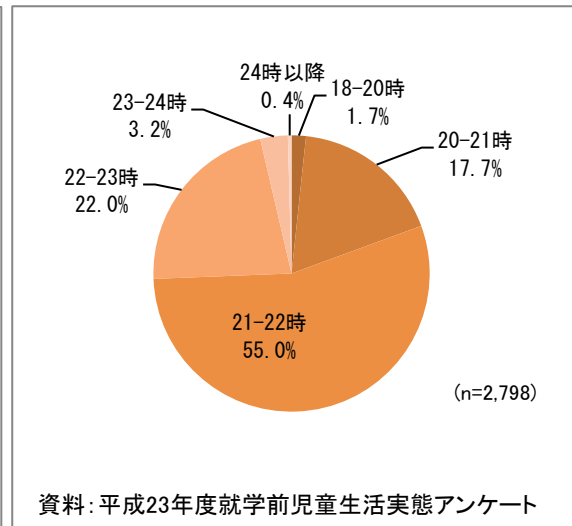


図 36 就寝時間(就学前児童)



⑨社会参加・社会的自立に関する意識

全国学力調査の結果では、大阪市の9割を超えることも「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えています（図37）。

若者意識調査では、「社会や地域の人のために役に立ちたいと思うか」について、「（まあ）そう思う」と回答した割合は7割となっています（図38）。一方で、ここ1年間で学校や仕事以外の活動への参加経験について「何もしたことがない」と回答した人は約63%にのぼり（図39）、参加しない理由としては、活動に関する関心や情報の不足、時間的余裕がないことがあげられています（図40）。

図37 社会や地域のために役に立ちたいと思う
(小中学生)

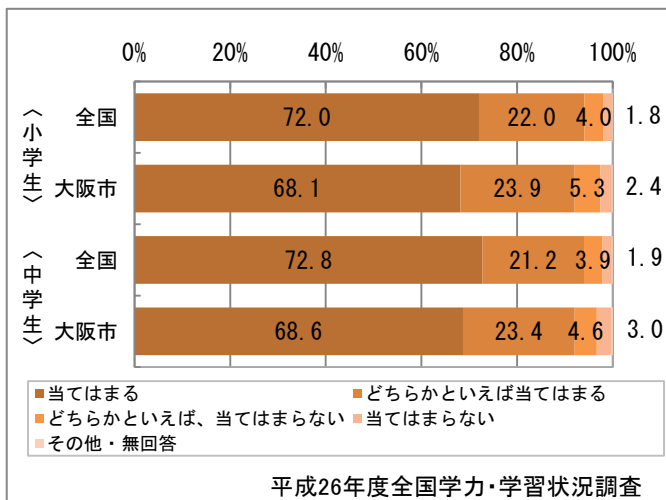


図38 社会や地域のために役に立ちたいと思う
(若者)

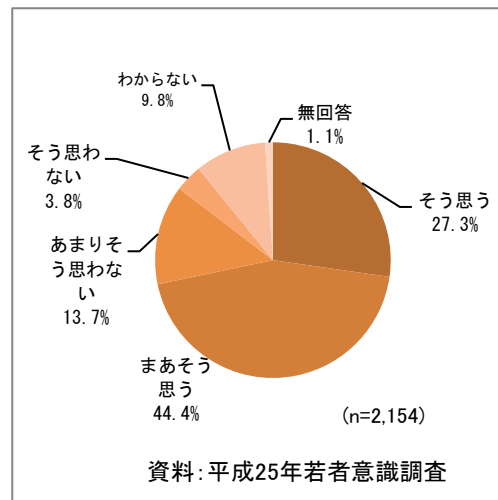


図39 現在参加している活動・この1年以内に参加した活動(若者)

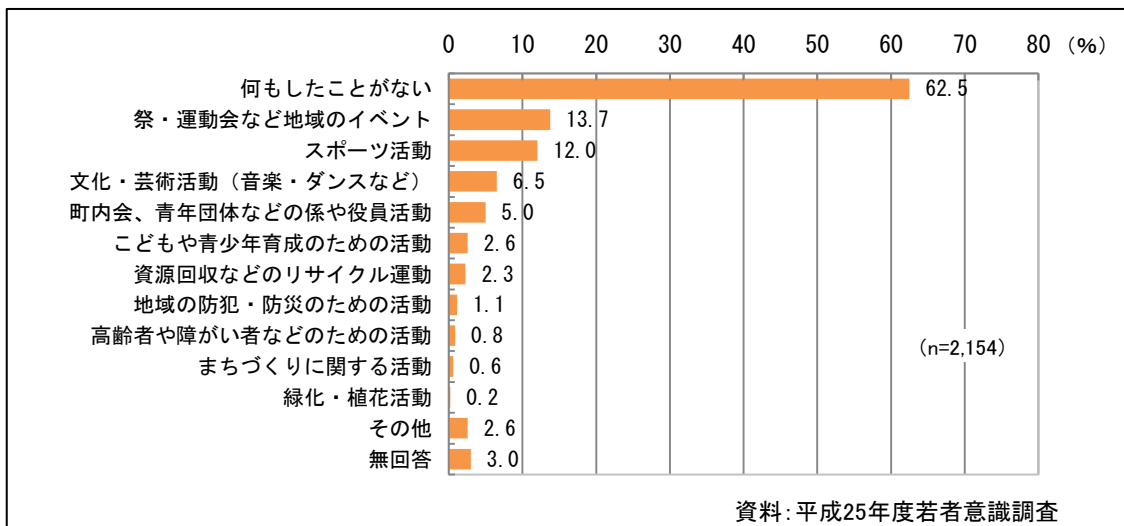
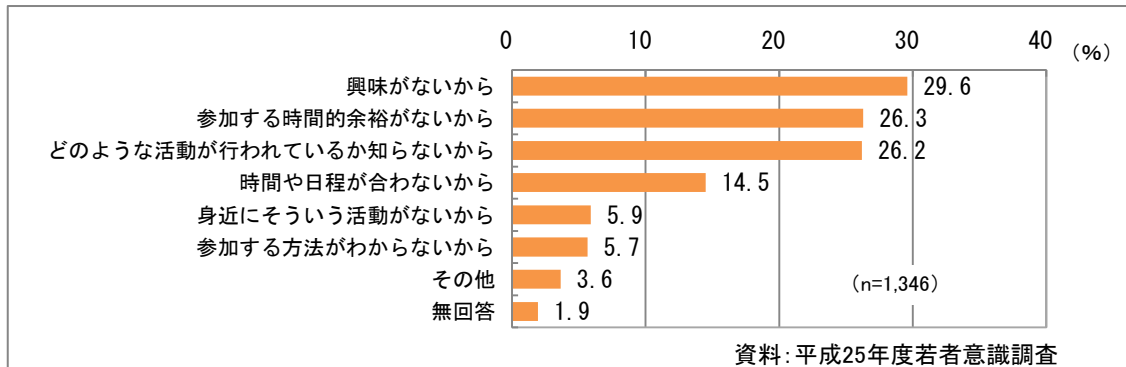
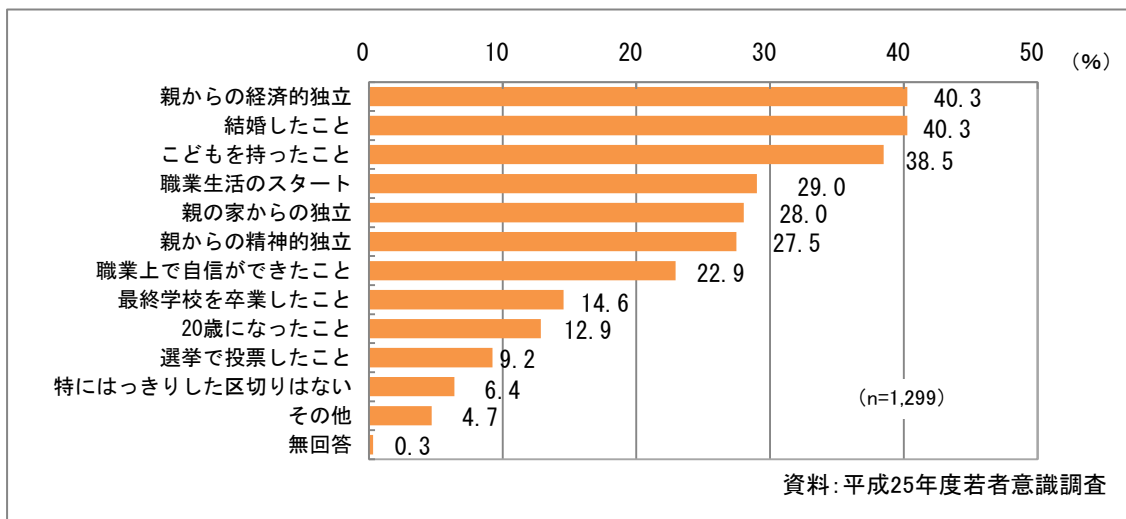


図40 参加したことがない理由(若者)



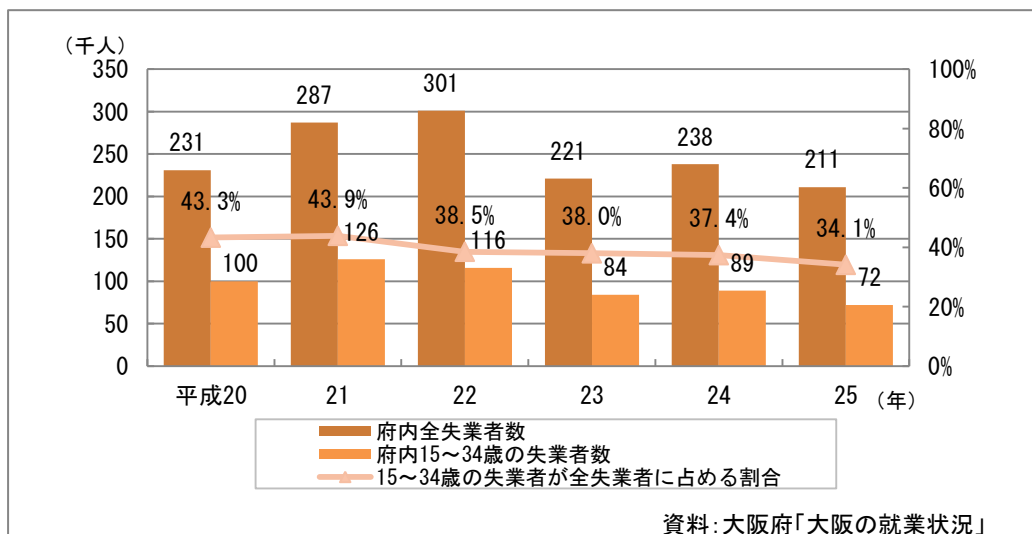
若者意識調査では、大人を自覚したきっかけについて「親からの経済的独立」とともに「結婚したこと」「子どもを持ったこと」と回答した割合が高くなっています(図41)。

図41 大人を自覚したきっかけ(若者)



大阪府内の失業者数には変動がありますが、失業者数に占める若者(15~34歳)の割合は約4割を下回り、やや減少傾向にあります(図42)。

図42 大阪府内の15~34歳の失業者数の推移及び全失業者に占める割合



⑩いじめ・不登校

いじめは依然として深刻な課題であり、平成 23 年に起きたいじめによる中学生の自殺事件が社会問題化したことをきっかけに、より軽微な事案に対しても積極的に認知し早期発見・早期対応に心がけることが重要視されたことから、小中学校現場におけるいじめの認知件数は増加しています。大阪市の傾向は全国と同じですが、千人あたりの件数は半分以下となっています（図 43）。

また、大阪市の不登校児童の在籍比率は、ほぼ横ばいで推移していたところ、平成 25 年度に急増し、小学校では全国平均の 1.5 倍、中学校では約 1.8 倍と高い数値になっています（図 44）。

図 43 小中学校におけるいじめの認知件数(1000 人あたりの認知件数)

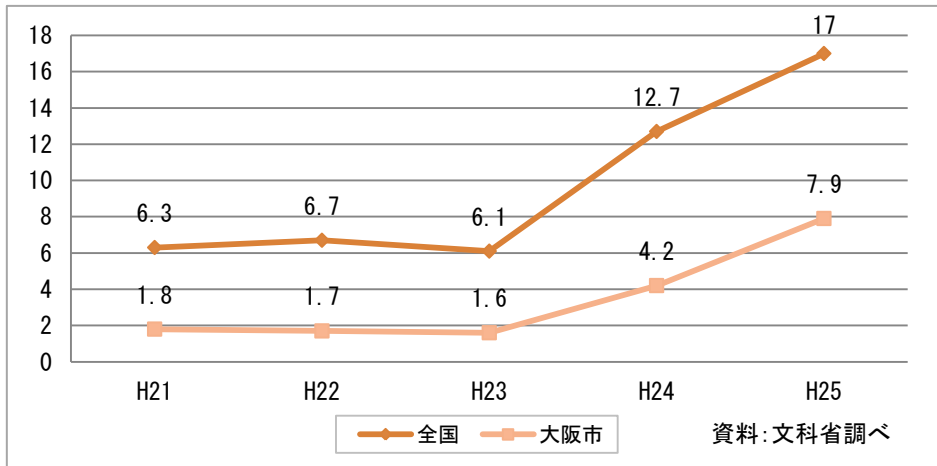


図 44 不登校児童生徒の在籍比率の推移

